

平成29年度 自己評価書・学校関係者評価書

■ そう思う ■ どちらかといえば、そう思う ■ どちらかといえば、そう思わない ■ そう思わない ■ 無回答

①豊かな心をはぐむ教育の推進

<h4>1 一人一人の児童生徒の尊重</h4> <p>学校は、一人一人の子どもを大切にしたい指導や対応ができていますか。</p>	<h4>2 友達への思いやり</h4> <p>子どもは、友だちとなかよくしていると思いますか。</p>	<h4>3 道徳・心の教育の充実</h4> <p>学校は、豊かな人間性を育む心の教育の充実に努めていると思いますか。（礼儀、生命尊重、思いやりなど）</p>
--	---	--

【学校から】○一人一人を大切にしたい指導や対応については、学習の場や様々な活動の場で、教師は児童のよさを認めることを心がけている。児童の頑張りやよさを紹介するためのこカード等に全校で取り組み、児童同士が互いを認め合う場も大切にしている。今年度は、保護者、児童の「どちらかといえば、そう思わない」「そう思わない」の割合が減っている。○日常生活での観察、毎月のなかよしアンケート等、児童の実態把握に努め、児童が友達となかよく関われるよう配慮している。今年度は、保護者、教職員の「そう思う」の割合が増えている。○豊かな人間性を育む心の教育として、人権教育の推進と道徳教育の充実を重点項目にあげている。保護者へは、学校だよりや懇談会等で教育方針や取組を伝えてきた。児童には、集会で寛容な心や異人種子どもも集まってくることを伝えてきた。教職員では、U/Dの視点を取り入れた道徳の授業改善を校内研修で行った。今年度は、保護者の「そう思う」の割合が増えている。

②確かな学力を育む教育の推進

<h4>4 意欲的な学習態度</h4> <p>子どもは、意欲的に授業に取り組んでいると思いますか。</p>	<h4>5 授業力向上</h4> <p>先生方は、わかる授業、楽しい授業づくりに努めていると思いますか。</p>	<h4>6 ICT活用</h4> <p>先生方は、ICT機器を活用してわかりやすい授業づくりに努めていると思いますか。</p>
---	--	---

【学校から】○「意欲的に学習に取り組んでいる」の項目で、保護者・児童の割合が高くなっている。特に児童は、昨年度に比べ、約50%から約65%とおよそ15%も高くなっている。教職員は、「意欲的に学習に取り組んでいる」「どちらかといえば取り組んでいる」の割合が100%に上っている。昨年度から校内研修で「学ぶ楽しさや分かる喜びを実感できる授業の工夫～U/Dの視点を取り入れた授業改善を通して～」のテーマの下、取り組んできた成果でもある。○「先生方は、わかる授業、楽しい授業づくりに努めていると思いますか」の項目では、「そう思う」の割合が児童・教職員共、昨年度よりそれぞれ5%、10%伸びている。校内研のノウハウである、「日頃の授業に活かす研究を」で意識して取り組んできた成果の表われだと思える。また、校内研究の一環として集中できる学習環境の整備と「学習支援が」の作成を行った。そのため、学習に集中できる児童が増え、九九カードやひらがななど「学習支援が」がある安心感から、学習に参加できるようになった児童も増えたためと考えられる。○昨年度以上に教職員の70インチや実物投影機の使用率が上昇している。また、U/Dの授業の研究と、デジタル教科書などの活用もあって、昨年度よりも教職員と児童の教値に上昇が見られる。

③健やかな体を育む教育の推進

<h4>7 健康づくり</h4> <p>子どもは、好き嫌いをなく食事をし適度な運動と十分な睡眠に気をつけて生活していると思いますか。</p>	<p><small>【学校から】○昨年度に比べると、保護者・児童・教職員ともに肯定的評価が80%超と向上してきている。昨年度は教職員の肯定的評価が70%弱であったのに対し、今年度は90%を超える評価となっている。この要因として、これまで継続して取り組んできた学校保健委員会による子どもたちの自主的な活動が、実態の向上として表われていると考えられる。</small></p>
--	--

④いじめ不登校などに対する相談支援体制の充実

<h4>8 児童生徒理解</h4> <p>先生方は、子どものよさを見つけ、子どもを理解しようと努めていると思いますか。</p>	<h4>9 いじめや問題への対応</h4> <p>学校では、いじめや問題があったとき、すぐに話を聞いて対応していると思いますか。</p>	<h4>⑤特別支援教育の推進</h4> <h4>10 学校の支援体制</h4> <p>学校は、支援を必要とする子どもの教育について、共通理解を図りながら取り組んでいると思いますか。</p>
---	--	--

【学校から】○現在、子どものよさを認め、励ます教育活動を実施している。しかし、1割程度の子どもや保護者の方が不十分であると評価している。子どものよさを口頭や通信などでより積極的に紹介し、認められている実感を高めていく活動を更に実践していきたい。○いじめや問題行動には担任だけでなく、様々な職員が連携して対応してきた。いじめや問題行動など様々な事案に対してアンテナをたて、更に組織的な対応に努めていきたい。○昨年度より、保護者の特別支援教育への理解が広がってきている。

⑥子どもたちの身近な安全対策の充実

<h4>11 安全と事故防止</h4> <p>学校は、子どもの事故防止などの安全教育に取り組んでいると思いますか。</p>	<h3 style="text-align: center;">⑦最適な学習環境の整備</h3> <h4>12 施設・設備の安全管理</h4> <p>学校の施設・設備は、安全でよく整備・管理されていると思いますか。</p>
---	---

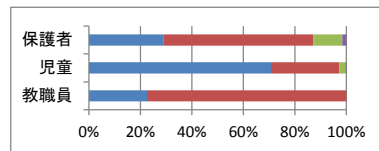
【学校から】○昨年より「そう思う」の回答が増え、安全対策が充実していることが分かった。今年度、緊急災害時における児童の保護者の引き渡し訓練等を行った成果であると認められる。今後は、自分の命は自分で守る教育の確実な実施とそのことの保護者への周知を徹底していきたい。

【学校から】○全体的に昨年より安全管理ができていているという回答が増えている。しかし、不安を感じている保護者が1割以上いる。これは、施設そのものが古いことが要因の一つである。安全点検を行っていることを保護者に更に周知を図るとともに、施設改善について要求をしていきたい。

⑧家庭・地域社会との連携強化

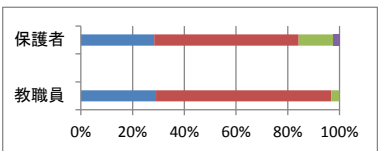
13 教育方針・目標の理解

学校は、教育方針や教育目標などを、子どもや保護者地域にわかりやすく示していると思いますか。



14 家庭や地域との連携協力

学校は、家庭や地域と連携・協力しながら教育活動を進めていると思いますか。

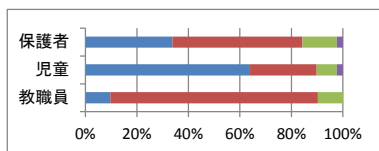


【学校から】○児童及び教職員については、昨年度より「そう思う」の割合が増えており、特に教職員は10%以上増えている。保護者はあまり変わらないが、今年度からHPでの発信にも力を入れたり、学校生活の様子と教育目標を関連付けて学校便りの記事にしたりするなど、周知に努めているところである。○保護者の2割近くが十分でないと感じている。学校支援ボランティアなどで教育活動に参加されている様子を伝えるとともに、さらに理解・協力いただけるように情報を発信していく。

⑨本校の教育

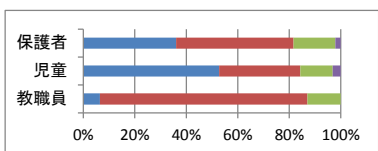
15 家庭学習

子どもは、宿題や家庭学習ができていると思いますか。



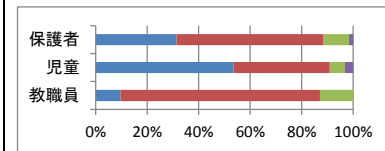
16 早寝・早起き・朝ごはん

子どもは、「早寝・早起き・朝ごはん」ができていると思いますか。



17 あいさつ

子どもは、あいさつができていると思いますか。



【学校から】○昨年度から「あせいっぱい、元気もりもり、いきいき生活」をテーマに、日常の遊び（運動）を通じての生活リズム改善を目標に、学校保健委員会を取り組み、少しずつ就寝時刻などの改善につながっている。今後は、保護者に対する更なる啓発や保護者を巻き込んだ取組などを工夫していくことが課題である。○子どものよさを認め、励まし・伝えていく活動を実施していく。いじめや問題行動について、迅速に対応していく活動を推進していきながら、懇談会などで挨拶等の基本的な生活習慣の学級での状況についても情報提供を行ってきたい。挨拶については、学校家庭で情報交換をしながら、子どもの様子を共有し、取組を進めていきたい。

来年度の具体的な取り組みについて

○「特別の教科 道徳」や第3学年から始まる「外国語活動」に向けて、教職員の研修を行い、更なる授業力向上に努める。学力検査の分析を細やかにし、全職員で共通理解を図り、本校の児童の実態に応じた教育活動を効果的にやっていく。
 ○ICT活用に関しては、保護者の方が、効果を実感できるような活用法の検討が必要であるとする。具体的に授業参観で活用を知らせていく。
 ○健康づくりに関しては、教職員を中心に他のアンケート項目に比べると肯定的評価が低い傾向にあるので、今後とも学校保健委員会の取組を中心とした活動を通して、「早寝・早起き・朝ごはん・汗いっぱい」の基本的な生活習慣ができる子どもたちの数を増やしていきたい。
 ○学校保健委員会は、取り組む時間の確保（何の時間で、何時間取り組むなど）について工夫し継続していきたい。取組報告会を懇談会等と抱き合わせにする、保護者来校が前後に重ならない日に設定する、PTA体育委員さんと共に学校保健委員会を実施するなど、既存の取組を土台に、家庭との連携、啓発を工夫していきたい。
 ○相談支援体制の充実に関しては、本校の取組状況や成果と課題について、「いじめ防止等対策委員会」等で十分に検証を行うことで、より実効性ある取組に改善を図っていく。
 ○学校の支援体制に関しては、本校において学習指導・生徒指導の組織的な体制が機能していることを、通信や懇談会等を通して保護者に更なる周知を進めていく。
 ○安全面では、今年度初めて行った「引き渡し訓練」での気付きを次年度に活かし、保護者と協力して、緊急時における児童の引き渡しをより速やかに確実にできるようにしていきたい。更には、「子どもの命を守る」訓練を行うことで、学校・家庭・地域が一つになれる機会としていきたい。

学校関係者評価

○一人一人の子どもを大切に、良いところを見つけ伸ばし、先生方全員で取り組んでいるところが見受けられた。
 ○子どもが学校で楽しく過ごしている日頃の様子等をわかりやすく記事にされた学校だよりを発行され、保護者との距離が近くなり、信頼関係を築かれているのを感じた。
 ○よく運動場の前を通るが、学年問わず元気に遊んでいる様子を見かける。春竹小の子どもたちは仲がいいと感じている。
 ○朝からよく子どもたちに声をかけている。初めは、挨拶ができなかった子どもが、繰り返すことで次第に反応があるようになってきた。継続の大切さを実感している。ただし、集団で登校するときは、話に夢中になるのか、挨拶できないことが多いので、それが課題である。
 ○地域の立場からは、モラル教育を学校で充実させてほしい。（小学生が多く捨てているというわけではないが、）ごみのポイ捨てなど現状は厳しい。今年度、地域の清掃業者（西原商店）に来てもらって授業をされたような学習を今後も大切にしていきたい。
 ○学校と保護者の連携の難しさは、地域を感じる各家庭との連携の難しさと同じである。町内行事への参加が年々減少してきている。
 ○校区の行事で、「はるたけフェスタ」はPTA、保護者も関わられ、大勢の子どもたちの参加があるが、「春竹防災の日」については、参加者が少なく残念である。地域というコミュニティの中で、親世代、子世代の交流の機会としても貴重であるとする。